

論文内容の要旨

Cases of retroverted uterus involving placenta previa and low-lying placenta previa are significantly associated with endometriosis

子宮後屈をきたす前置胎盤・低置胎盤症例は、子宮内膜症を有意に合併している。

日本医科大学大学院医学研究科 女性生殖発達病態学分野

研 究 生 針 金 永 佳

JNMS Vol.92 No.1 (2025年2月号) 掲載予定

【背景】

子宮内膜症と前置胎盤との関係は近年多数報告されているが、その要因は解明されていない。この要因を探るために我々が以前行った研究により、前置胎盤・低置胎盤症例では、子宮後壁発生の子宮内膜症が多いこと、子宮後壁癒着を有意に伴うことがわかった。子宮後面癒着は手術の易度を上げるため、術前診断が注目されている。その一つが子宮後屈である。これらをヒントに前置胎盤、低置胎盤のリスク因子として子宮が後屈であることを仮説に加えた。

【目的】

子宮後屈をきたす前置胎盤・低置胎盤症例では、子宮内膜症を有意に合併するのかどうかについて検討することを目的とする。

【方法】

2015年1月から2022年12月までの間に、日本医科大学武蔵小杉病院で、前置胎盤または低置胎盤の診断で帝王切開術を行った症例を対象とした。このうち多胎妊娠および妊娠12週未満時の子宮全体像が診療録にないものを除外した。これらを生子宮内膜症合併の有無により、2群に分けた。2群間において、妊娠初期時の子宮後屈の有無、胎盤の後壁付着の有無について後方視的ケースコントロール研究を行った。

【結果】

対象期間内に前置胎盤・低置胎盤の診断で帝王切開術を行った症例は225例あり、除外項目を除くと110例になった。このうち子宮内膜症あり群は32例、なし群は78例であった。

子宮後屈であった症例は、子宮内膜症あり群で15例(46.9%)、なし群で17例(21.8%)と子宮内膜症あり群で有意に多かった($P=0.01$)。子宮後屈かつ胎盤後壁付着症例は、子宮内膜症あり群で15例(46.9%)、なし群で16例(20.5%)と子宮内膜症あり群で有意に多かった($P=0.009$)

【結論】

子宮後屈の前置胎盤・低置胎盤、子宮後屈で胎盤後壁由来の前置胎盤・低置胎盤では、子宮内膜症を有意に合併していることが示された。妊娠前の子宮内膜症進行の抑制、重症化する前の妊娠が大事である。子宮後屈である子宮内膜症患者では、胎盤後壁由来の前置胎盤の可能性を念頭におくとよい。

日本医科大学大学院医学研究科 女性生殖発達病態学分野

研 究 生 針 金 永 佳

JNMS Vol.92 No.1 (2025年2月号) 掲載予定